

文部科学省令和元年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業報告書

「小学校における発信型スキルを育成する指導法と評価に関する研究」

研究代表者 廣江 顕

長崎大学言語教育研究センター

I	はじめに	1
II	アンケート調査結果	3

I はじめに

本調査研究は、諸般の事情もあって、本格的に取り組むのが令和元年の9月以降となる異例の展開を辿った。それでも、研究協力校の選定に協力していただいた佐世保市教育委員会学校教育課をはじめとして、長崎県教育庁義務教育課義務教育班、長崎大学地域教育総合支援センターから、本研究を行っていたさまざまな段階でご協力・ご助言を得た。感謝申し上げたい。本研究のような取り組みは、教育行政及び教育現場の協力がなければ、分からないことが少なからずあるとの認識を改めて得た。

とりわけ、研究協力校として手を挙げていただいた佐世保市立吉井北小学校には、「外国語活動」・「外国語」の授業に参加させていただき、ALTを中心とした形での言語活動モデルをお示しした。学校現場というものは、年度当初に年間の学校行事等の計画が決められており、年度途中で新たな行事を差し込むことはふつうありえない。そうしたなか、本研究のために、授業での研究実践をさせていただいたことにも感謝申し上げたい。

小学校では、本年4月から新『学習指導要領』にもとづいたカリキュラムが完全実施となる。2年間の移行措置期間を経ての実施ではあるものの、担任教師の英語力を含む指導法等の研修、専科教員の配置・活用、ALTの派遣頻度の地域格差それに授業での活用、等々、問題は山積している。さらに、英語教育だけでなく、プログラミングといった、新たに導入されるものも含めて、学校現場ではその対応に追われているのが現実である。

「外国語」だけを取り上げてみても、制度をつくり、通達を出し、各都道府県単位で伝達講習を行わせる側の文部科学省の動きが鈍いのも問題を大きくしている。一例を挙げると、その評価（具体的には、具体的な評価項目と評価の実例）を決めるのが遅すぎた観がある、と言っていいだろう。というのも、文部科学省は、以前から「指導と評価の一体化」ということを強く主張してきたにもかかわらず、評価の詳細を浸透させていくプロセスが今現在（令和2年1月以降）行われているのが現状である。

さらに、教育現場で伺い大変驚いたことだが、新しい評価方法に変更された場合、教育委員会等からの伝達講習（小学校によっては、校務分掌としての「外国語担当」による伝達講習を含む）のみがあるだけで、あとは学校現場で対応すると考えていたところ、どうもそうではないことが分かった。伝達講習が行われた後、各地域で置かれている「外国語部会」で、一定程度、対応の仕方が決められてはじめて現場に降りてくるのだという。最終的に、学校現場にその評価方法が浸透するのに数年を要するらしい。

以上のような状況を少しでも養成課程段階から改善すべく、本研究では「小学校における発信型スキルを育成する指導法と評価に関する研究」というテーマで、小学校教員養成課程に資する研究を行った。そのひとつが、小学校教員養成課程を有する全国の大学へのアンケート調査であった。本調査は、年度末という時期を考慮して、紙媒体ではなく、指定されたサイトへアクセスしていただき回答してもらおう、という方式で行った。それでも、回答率が期待していたものよりかなり低いものに結果としてなってしまった。その一

方で、回答していただいたものだけでも、新しい評価また評価一般に関する養成課程での取り組みの如何およびその一端はお分かりいただけるかと思う。

さらに、本事業の研究代表者が、これまで研究の一環として行ってきた「パフォーマンス評価」が、新しい評価制度・項目の中でどういう位置付けになるのか（またならないのか）を考察したものを本報告書に論文の形で入れる予定だったが、上でも若干言及したように、評価項目、評価の仕方、等々が教育委員会によって公表されたのが本年1月中旬以降になってしまったために、本格的な考察は全体が明らかになってからのほうが望ましいと判断し、報告書へ入れることは見送った。ちなみに、評価の具体例は、3月に国立教育政策研究所のHPにアップロードされるとのアナウンスが事前にはあったものの、現時点（3月16日）ではまだ公表されていない。

本報告書が、文部科学省並びに全国の小学校教員養成課程を有する大学の参考になれば幸いである。

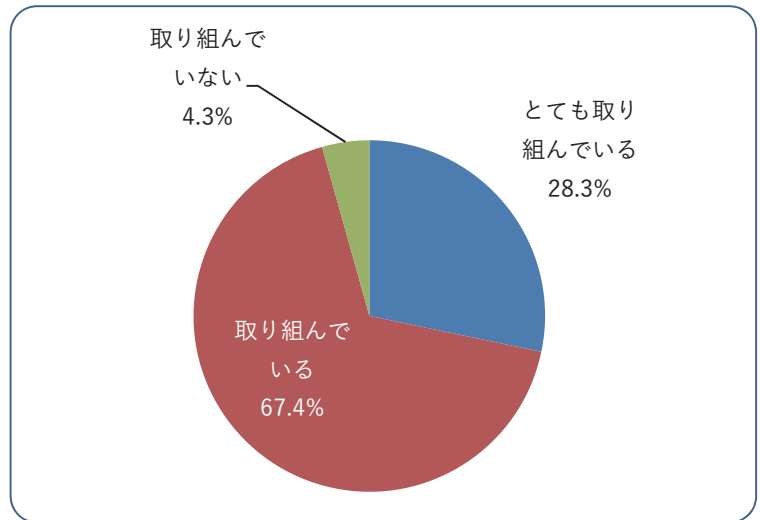
【小学校教員養成課程における「外国語」・「外国語活動」に関するアンケート調査】

小学校教員養成課程を有する全国の大学246校にアンケート調査を行い46校からの回答があった。

Q1-①【外国語の指導法】(1)小学校外国語教育についての基本的な知識・理解

選択肢	度数	割合
1 とても取り組んでいる	13	28.3%
2 取り組んでいる	31	67.4%
3 取り組んでいない	2	4.3%
4 わからない	0	0.0%
合計	46	100.0%

単位(校)



①とても取り組んでいる

- 「小学校英語指導法」という科目内で指導している。
- 英語教授法の変遷を概観し、目標にあった指導の在り方を説明しています。
- 学校教育課程の1年次前期に「小学英語」(選択必修)、2年次前期に「初等外国語教育法」(必修)の科目が設置されているため、学生は段階的・継続的に小学校外国語教育についての講義や演習に取り組み、基礎的な知識・理解を深めることができている。
- 学習指導要領の理解、外国語(英語)に関する知識の充実を図る。
- 教科書を使って、外国語教育の歴史や目標を学んでいる。
- 授業で徹底している。
- 授業の中で専門的な知識を学べるように教科書を使ったり、小テストを行ったりしている。
- 小学校から高等学校までの日本における英語教育の歴史的経緯と現状、課題、英語という言葉の現状、英語の特質、異文化間コミュニケーションの課題をはじめとして、小学校における英語教育を考える上で必要な基本的事項については、包括的に扱っている。
- 小学校英語スキルアップ講習の実施
- 小学校英語の専任教員がおり、適宜授業で説明を行っている。
- 中学年の絵本指導、発音・フォニックス。第2言語習得理論 ゲーム・歌の意味と指導法、Teacher Talk Small Talk 指定の教科書のテーマから模擬授業 全員 CLILとその理論 その模擬授業 教師としてのプレゼン指導 ICT活用 海外の英語教育、英米文学の扱いと、海外の絵本の指導法、インターアクション 生徒中心の英語活動の組み方 ルーブリック作成 等(詳しくは、本学 シラバス公開 初等英語科教育法 から閲覧ください)
- 令和2年より初等英語科指導法が開講される。また初等英語は令和元年度後期より開講し、小学校英語教育で必要となる英語発音・英文法について講義演習を行っている。

②取り組んでいる

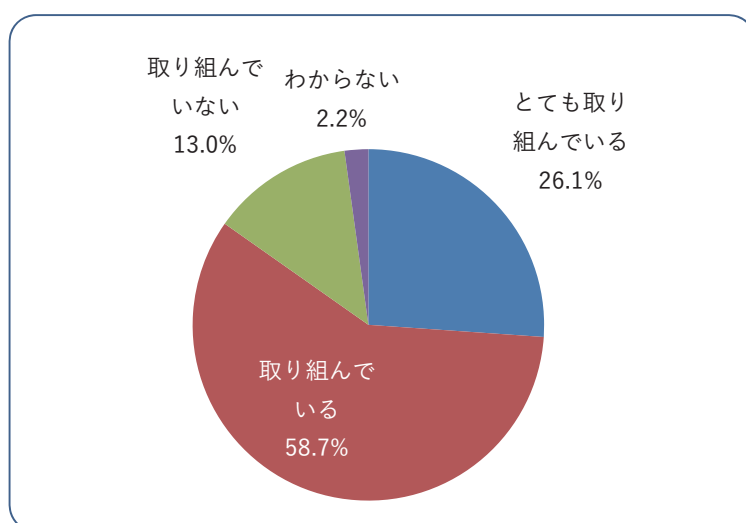
- 2019年度新設大学ですので、授業は始まっていませんがコアカリキュラムに準拠して実務家教員が指導法を教えます。
- 2019年度入学生から3年次前期の「教科教育法英語(2単位必修)」で指導する予定。
- 3年生対象の「外国語活動論」で小学校外国語教育の基本理念や学習指導要領について取り上げている。
- テキスト「はじめての小学校外国語活動実践ガイドブック(開隆堂)」を用いている。
- テキストで理論的な内容を学び、それを演習で実践している。
- 英語科概説の授業の中で

- 学習指導要領、解説について講義した。
- 学習指導要領、小中高の連携と小学校の役割等
- 学習指導要領と教材の関係について理解を促す取り組み。
- 学習指導要領の概要と、3つの資質・能力を英語教育の内容に即して学習している。
- 学習指導要領の内容及び教科書・教材を、小中の接続を踏まえ、両者を比較しながら扱っています。
- 学習指導要領やその経緯を解説し、DVDの授業視聴、We Canなどの教材も取り入れている。
- 学習指導要領や研修ハンドブックを基に、成立・改訂の経緯や求められる指導について教示し、コメントペーパーを通じてアウトプットとフィードバックを行っている。
- 教員採用試験とも関連するため、学習指導要領の深い理解を学生に求めている。
- 教科書を基に、理解したことをアクティブラーニングの形で学生に発表させている。
- 教科書等を参考にしながら、語彙や文法、発音等の外国語教育に必要な基礎知識の理解に努めている。
- 教職に関する選択科目として、「小学校外国語活動の研究」（半期1コマ2単位）を平成20年頃から設置している。
- 指導案作成の演習的な授業中に組み入れている。
- 授業の講義内容として扱っている。
- 授業内での扱いだけでなく、キャリア教育科目の中でも基本的な知識・理解を扱うようにしている。
- 初等教育コースの学生に、専門科目（「小学校英語」選択必修）の中で小学校外国語教育についての基本的な知識を、学習指導要領および学問的知見をもとに提供し、教科教育科目（「小学校英語指導法」必修）の中でそれらの知識の応用をかんがえさせている。これらのコアカリキュラム以外に、3年生対象の「教員養成基礎講座」という鹿児島県教育委員会と鹿児島大学との連携協力によって行っている講座の中でも小学校英語の基礎知識について話をしている。
- 小・中・高の学習指導要領と教科書、小学校の英語教育の役割について
- 小学校における英語の指導を想定した「専門基礎英語」を推奨し、8割近くの学部1年生が受講中。発展的な小学校外国語活動論は英語教育専修3年生の17名が受講中。
- 小学校に外国語が導入されるようになった歴史的な経緯と、その意味について主として学習指導要領に基づいて教えている。
- 小学校外国語活動・教育の目標の理解、小学校外国語の教授、学習プロセスの理解、授業実践の指導技術の修得、授業づくりの実践・体験・考察の基礎的知識の修得を目指す。
- 日本の外国語教育の歴史、現在の目標などについて

Q1-②【外国語の指導法】(2)子供の第二言語習得についての知識とその活用

選択肢	度数	割合
1 とても取り組んでいる	12	26.1%
2 取り組んでいる	27	58.7%
3 取り組んでいない	6	13.0%
4 わからない	1	2.2%
合計	46	100.0%

単位（校）



①とても取り組んでいる

- 「小学校英語指導法」「小学校英語」という科目内で指導している。
- SLA と子どもの成長、及び L1 獲得について
- 学校教育課程の1年次前期科目「小学英語」（選択必修）や2年次前期科目「初等外国語教育法」（必修）

において、第二言語習得のメカニズムについて概念的理解を促し、習得を促す活動を考案するなどの演習問題に取り組ませている。

- 教科書を使って、基礎的な第二言語習得論を学んでいる。
- 授業で徹底している。
- 授業の中で専門的な知識を学べるように教科書を使ったり、小テストを行ったりしている。
- 小学校英語スキルアップ講習の実施
- 小学校英語指導法の授業で第2言語習得の主たる内容について扱うとともに、別途、第2言語習得研究の授業を開講している。
- 第一言語の習得と Krashen の第二言語習得論を比較し、コミュニケーション言語の育成のために踏まえるべき知識について教示している。また、指導案作成や模擬授業の際には、意図的な学習ではなく、慣れ親しみによる習得を目指しているかを評価項目に入れ、学生に意識させた上で内容を作成させている。
- 第二言語習得における視点、特に社会言語学および心理言語学の側面で講義しています。

②取り組んでいる

- 「小学校英語」の中で第二言語習得の知見を紹介し、「小学校英語指導法」の中で第二言語習得の知見に基づいた指導法についてかんがえさせている。
- ①と同様。特に第1言語獲得と第2言語習得の関係は、小学校教員にとって不可欠の知識と考え、重点的に指導している（国語科と英語科を相互媒介的に教える方法）
- 2019年度新設大学ですので、授業は始まっていませんがコアカリキュラムに準拠して実務家教員が子供の第二言語習得について教えます。
- 2019年度入学生から3年次前期の「教科教育法英語（2単位必修）」で指導する予定。
- DVDを見せるなど、視覚教材を用いて理解しやすいように扱っています。
- ESLとEFLの違い、母語習得と第二言語習得の違い、臨界期仮説などを理解するようにしている。またとくに子どもの言語習得に関しては用法基盤モデルを中心に理解をすすめている。
- アウトプット能力を養成する目的の授業中に組み入れている
- インプットの重要性、音声から文字へ、といった指導の流れを学び、実際の指導での取り入れ方について体験しながら学習している。
- テキストで理論的な内容を学び、それを演習で実践している。
- 英語科概説の授業の中で
- 協同的な学びを通してこれらの知識を培い、学校での第二言語習得の意味を探求している。
- 教科書（樋口忠彦ら『新編 小学校英語教育法入門』）における内容を教育法でカバーしている。
- 言語使用を通じた言語習得、言語習得のプロセス、音声によるインプットのあり方等
- 授業の講義内容として扱っている。
- 授業の中でコマを設けて説明している。
- 授業内でも主に扱っている。
- 第二言語習得のプロセスについての理論や代表的な仮説などについて解説した。
- 第二言語習得の重要性を理解すること。
- 第二言語習得の理解と授業指導への応用について
- 第二言語習得理論について講義、開設をする
- 第二言語習得論の授業を開講している。
- 単に第二言語習得の知識を伝えるだけでなく模擬授業などで具体的指導に照らしながら示すようにしている。
- 補助教材を用いている。

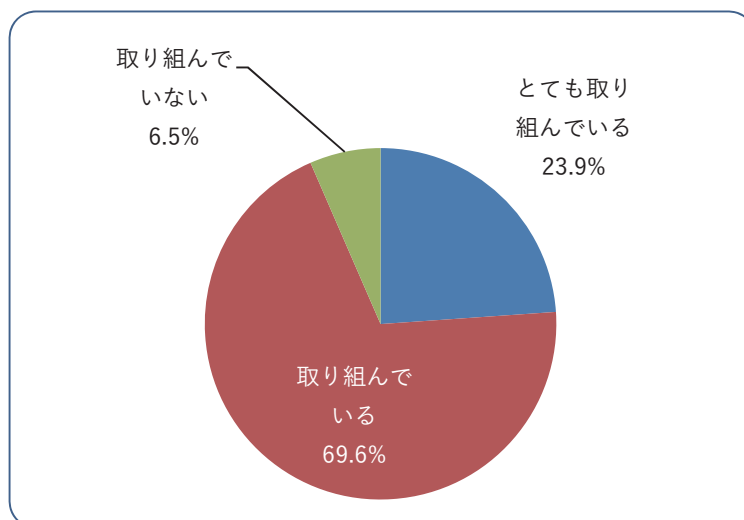
③取り組んでいない

- 令和2年度の初等英語科指導より指導をしていく予定である。

Q1-③【外国語の指導法】(3)指導技術

選択肢	度数	割合
1 とても取り組んでいる	11	23.9%
2 取り組んでいる	32	69.6%
3 取り組んでいない	3	6.5%
4 わからない	0	0.0%
合計	46	100.0%

単位(校)



①とても取り組んでいる

- 「小学校英語指導法」という科目内で指導している。
- グループを作り、全員が模擬授業を行う。
- 指導法の授業で理解したものを「児童英語演習」などの授業で小学校の教壇実習まで行っている。
- 授業で徹底している。
- 授業映像の視聴や模擬授業の実施などを行っている。また、附属小学校の教員を授業担当にしている。
- 小学校英語スキルアップ講習の実施
- 小学校英語指導法の授業で、実際の教材に即して、具体的な指導技術を指導している。
- 模擬活動に取り組みせ、フィードバックを提供している。
- 模擬授業の科目を設定して、15 コマ確保している。

②取り組んでいる

- 2019 年度新設大学ですので、授業は始まっていませんがコアカリキュラムに準拠して実務家教員が実践的な指導技術について教えます。
- 2019 年度入学生から3 年次前期の「教科教育法英語(2 単位必修)」で指導する予定。
- 3 年生対象の「外国語活動論」でクラスルーム・イングリッシュを実践している。
- chants と activity の指導技術を、phonics 指導と合わせて行い、学生の英語の prosody 形成が進むように配慮している。
- microteaching
- Teacher talk の行い方、小学校で扱う指導法の基礎知識と実践など
- クラスルームイングリッシュ、聞くことなどの指導について講義および演習を行った。
- フォニックスを理解し基本的な指導法を身に付けるようにすること。
- 英語での語りかけ方、児童とのやり取りの進め方等
- 英語音声、コミュニケーション活動、意味あるやり取りなどについて
- 英語科概説の授業の中で
- 基本的な音声指導を中心に行っています。
- 教科書、動画、テキスト等を通して、英語の読み書きやスピーキング力を重視した指導技術の向上に努めている。
- 教職に関する選択科目として、「小学校外国語活動の研究」(半期1 コマ2 単位)を平成20 年頃から設置し、そのなかで取り扱っている。
- 具体的な指導技術や現場での実状等は伝えているが、受講者が多い(90 名ほど)ので、一人ひとりに実際に模擬授業等を行わせるのは困難である。よりよい方策を模索中。
- 師範授業を視聴・体験後、模擬授業をさせている。
- 指導案を作成し、授業では模擬授業を行なっている。
- 指導案を作成し、模擬授業を行う(実践させる)

- 指導案作成の授業
- 児童とのやり取りの仕方、絵カード提示の仕方、small Talk を中心に学習している。
- 実際の授業を観察し、活動型と教科型それぞれの教材、指導方法、評価などを理解するとともに、子どもの発達段階にあわせた指導技術のほか、小中高の接続・意識した指導の在り方を学ぶ
- 実際の授業風景を映像で見ることで、名人と呼ばれる教員が活用している指導技術について学ばせている。また、他の学生を児童に見立てて、英語で指示を行ったり活動を行わせたりする演習も行っている。
- 受講者が模擬授業を行い、それを受けてディスカッションを行っている。
- 授業で、適宜、説明や事例を示している。また、ペアやグループで学び合いをしている。
- 授業の中で行うマイクロティーチングを通して指導している。
- 授業内で模擬授業を実施する中で扱うことになっている。
- 模擬授業を通して取り組んでいる。

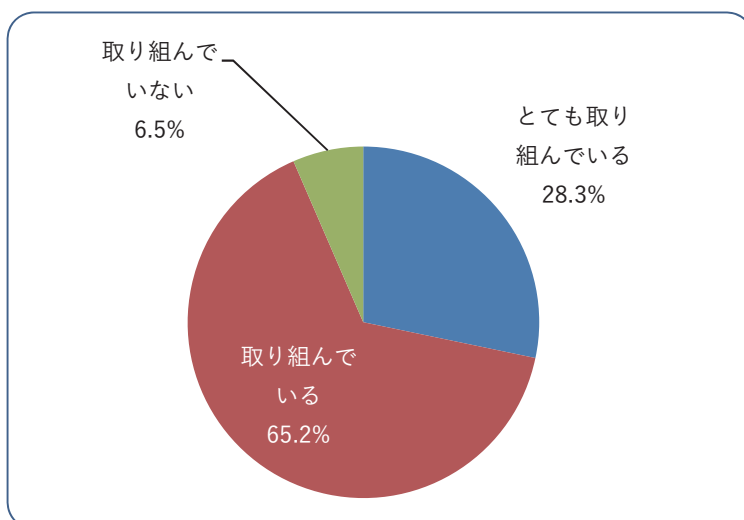
③取り組んでいない

- 令和2年度の初等英語科指導より指導をしていく予定である。なお、令和元年度までは、「小学校外国語活動・英語教育」という授業で指導をしていた。

Q1-④【外国語の指導法】(4)授業づくり

選択肢	度数	割合
1 とても取り組んでいる	13	28.3%
2 取り組んでいる	30	65.2%
3 取り組んでいない	3	6.5%
4 わからない	0	0.0%
合計	46	100.0%

単位(校)



①とても取り組んでいる

- 「小学校英語指導法」という科目内で指導し、小学校に見学に行き、模擬授業を行っている。
- グループを作り、全員が模擬授業を行う。
- マイクロティーチングを半期で2回実施している。
- 教材研究、学習指導計画、指導案作成などをふまえて模擬授業を実施。
- 授業で徹底している。
- 授業映像の視聴や模擬授業の実施などを行っている。また、附属小学校の教員を授業担当にしている。
- 小学校英語スキルアップ講習の実施
- 小学校英語指導法の授業で、実際の教材に即して、授業における活動のデザインの仕方および実施方法を指導している。
- 少人数グループで指導案作成及び授業作りに取り組ませ、模擬授業を実践させている。
- 前述と同じ。
- 模擬授業の科目を設定して、15コマ確保している。

②取り組んでいる

- 「小学校英語指導法」において小学校で行うコミュニケーション活動やチャンツのやり方、非言語コミュニケーションの活用法、チームティーチングの実際、文字指導、指導案の作成方法等を含めて単元の構成の仕方等を伝えている。

- 1 単元の teaching plan 作成
- 2019 年度新設大学ですので、授業は始まっていませんがコアカリキュラムに準拠して実務家教員が実践的な授業づくりについて教えます。
- 2019 年度入学生から 3 年次前期の「教科教育法英語（2 単位必修）」で指導する予定。
- 3 年生対象の「外国語活動論」で単元指導計画や学習指導案について取り上げている。
- テキストを用いている。
- ほとんどの学生は自分たちが中学校で学んだきた英語の授業からなかなか離れられないので、小学校の英語指導は音声中心の「聞く」「話す」活動から入り、文字は音声に十分慣れ親しんでから導入すること。また文法や意味の説明は最小限におさえて、適正な場面設定をしながら体験的な学びができるように活動を考えること、などを強調している。
- 英語科概説の授業の中で行っている
- 学校公開等の授業 DVD を例にとり、授業運営を説明しています。
- 学習指導要領の考え方やコミュニケーション、第二言語習得などを踏まえた授業構成および指導について講義、演習を行った。
- 教職に関する選択科目として、「小学校外国語活動の研究」（半期 1 コマ 2 単位）を平成 20 年頃から設置し、そのなかで模擬指導計画や模擬授業（場面指導）等で取り扱っている。
- 後期の指導において、「We can」の一部を授業化し、模擬授業を全員に課している
- 指導案・細案・板書計画の作成を通して学んでいる。
- 指導案作成の授業
- 授業 DVD 視聴、授業体験を踏まえ、また SLA の知識を活かし、指導案作成と模擬授業に取り組んでいる。
- 授業で活用できる教材を考えさせる
- 授業の中で行うマイクロティーチングを通して指導している。
- 授業内で模擬授業を実施するための指導案作成課題の中で扱っている。
- 小学校英語教育の基本を学んだ後、指導案を書き、グループごとに模擬授業を行い、あらかじめ観点を決めて相互評価を行っています。
- 上述の基礎的知識の習得と理解を踏まえながら、具体的な授業デザインを構想している。
- 題材の選定、教材研究、単元計画、学習指導案作成、チームティーチングの指導の在り方、ICT の活用等
- 文部科学省の Hi, friends! を使用した指導案例を基に、4 5 分の授業や単元全体がどのように構成されているかを解説している。更に、他の授業内容で得た知識や技術を活用し、実際に活動を作って実践したり、4 5 分間の授業の指導案を作成したりさせている。
- 模擬授業と授業づくりに関する討議など
- 模擬授業に際し、指導案を提出させ、コメントする等している。
- 模擬授業を通して教材研究やコミュニケーション技術・指導、ALT とのチームティーチング、ICT の活用、教材開発に到るまで学ぶ

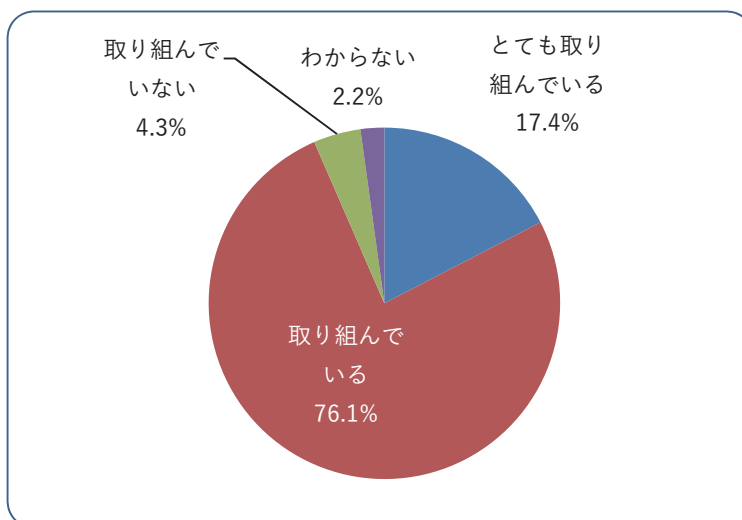
③取り組んでいない

- 令和 2 年度の初等英語科指導より指導をしていく予定である。なお、令和元年度までは、「小学校外国語活動・英語教育」という授業で指導をしていた。

Q1-⑤【外国語に関する専門的事項】(1)授業実践に必要な英語力

選択肢	度数	割合
1 とても取り組んでいる	8	17.4%
2 取り組んでいる	35	76.1%
3 取り組んでいない	2	4.3%
4 わからない	1	2.2%
合計	46	100.0%

単位(校)



①とても取り組んでいる

- 「小学校英語」という科目内で発音、スピーキング、ライティング、リスニング、リーディング、文法についての指導をしている。
- クラスルームイングリッシュの実用力テストを行っている。
- 教室英語を暗記させる。
- 授業外の課題で徹底している。
- 初等英語科教育法では、コアカリキュラムを主に扱い、特に英語力については、英語Ⅰと英語Ⅱの教員と連携して、学生の会話力、プレゼン、ディスカッション Nativeとの面接 インタビュー指導 英検対策をしている。
- 小学校英語スキルアップ講習の実施
- 毎週、授業の冒頭で教室英語表現小テスト（口頭及び筆記）を行っている。

②取り組んでいる

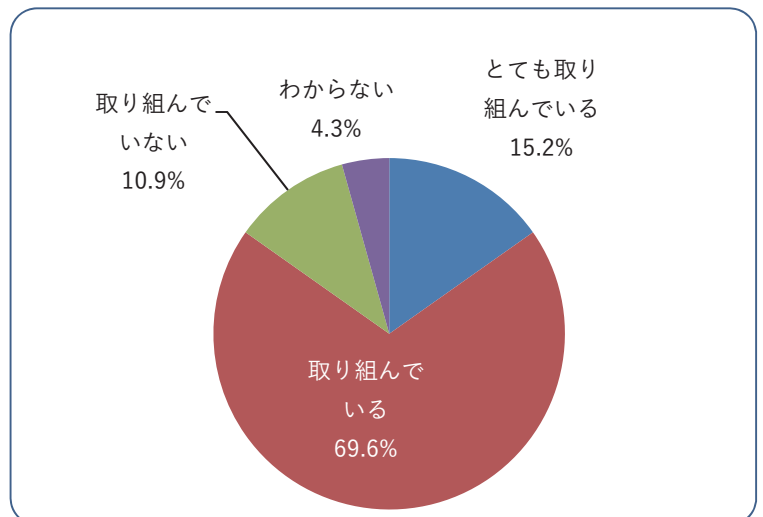
- 「小学校英語」の中で、主にオーラルコミュニケーションの能力の鍛え方の理論と実際に触れている。
- 1年生前期試験はTOEIC IPテストを1年生全員が受験する。前期の共通（教養）教育の英語はTOEICを視野に入れた授業を行っている。
- 2019年度新設大学ですので、授業は始まっていませんがコアカリキュラムに準拠して実務家教員が授業実践に必要な英語力の養成を試みます。
- 2019年度入学生から3年次後期の「初等科英語（2単位選択必修）」で指導する予定。その他、一般的な英語力向上のための科目としては共通教育の英語科目や中学校教科の英語コミュニケーション関係の科目がある。
- 3年生対象の「児童英語」で毎回学生による英語でのミニトークと質疑を実践している。
- Classroom English 演習として、教員が指定した活動を、日本語の指示を基に英語で指導する演習を学生同士で行わせている。また、指導案の作成にあたっては、英語とする予定の指示を台本のように書かせることで、授業をすすめるために必要な英語力を評価するようにしている。
- クラスルーム・イングリッシュ、授業のための基本的な英会話等
- クラスルーム English
- クラスルームイングリッシュの習得、英語音声の習熟など
- クラスルームイングリッシュを繰り返し練習している。
- クラスルームイングリッシュを授業で帯活動として取り入れている。
- 英検2級以上の資格取得を促すとともに、課外の英検対策講座を実施。
- 英語で授業を行うに必要なレベルの英語の演習
- 英語の歌・絵本を活用した音声・文法指導法等
- 絵本の読み聞かせ方など
- 簡単なリスニングを中心にクラスルームイングリッシュのテストを行っています。

- 教材分析の授業中に組み入れている。
- 教室英語の学習と小テストを通して取り組んでいる。
- 教室英語を授業で実際に使って、学生にも使えるようになるように意識するように指導し、定期試験内容にも取り入れている。また、模擬授業を行う際にもできるだけ英語を使うように指導している。
- 教養必須授業として1年時に一般英語を受講、2年からの以上の授業の中で、実際の授業場面を想定して、模擬授業(micro)を実施している
- 授業(上記)の中で毎時間英語スピーチを課している
- 授業場면을具体的に想定しながら、読み書き、スピーキングに必要な英語力を高めている。
- 授業内でクラスルーム・イングリッシュを使いこなせるよう全体練習やペア活動を実施している。
- 初等英語でクラスルーム英語を指導している。昨年度は、英検2級～準1級程度の英語力を目指すために英語科教員が教育学部生の希望者を対象に英検講座を開いた。
- 小学校英語に関する授業を、英語母語話者教員が英語で担当することによって、小学校英語を指導する上で必要な英語力の向上を目指している。
- 小学校外国語の授業実践に必要な「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の他、やりとりと発表の技術やクラスルームイングリッシュの実践例、パフォーマンスなど授業実践に必要な英語の基礎を身につける。
- 場面を設定し、その内容に即した教室英語を学習している。
- 本学の授業担当者が、学生の実態に合わせて書籍を出版し、これを用いています。
- 模擬授業などを通して、発音、イントネーション、スペリング、文法力の向上を目指すこと。
- 模擬授業の科目を設定して、15コマ確保しており、その中で教室英語を扱っている。今年度の新入生からは、新カリとなり「初等英語1・2」を2年次の前後期に設定している。
- 模擬授業の実施などを通して取り組んでいる。

Q1-⑥【外国語に関する専門的事項】(2)英語に関する背景的な知識

選択肢	度数	割合
1 とても取り組んでいる	7	15.2%
2 取り組んでいる	32	69.6%
3 取り組んでいない	5	10.9%
4 わからない	2	4.3%
合計	46	100.0%

単位(校)



①とても取り組んでいる

- 「小学校英語」という科目内で児童文学や文化について指導している。
- こちらも、英語Ⅰと英語Ⅱと連携(シラバス公開を閲覧ください)
- 授業で徹底している。
- 授業の指定教科書や学習指導要領、その他の関連文献等を用いて、音声、語彙、文法、正書法についての講義と演習を実施している。
- 授業の中で専門的な知識を学べるように教科書を使ったり、小テストを行ったりしている。
- 小学校英語スキルアップ講習の実施

②取り組んでいる

- 「異文化理解」の授業を開講。「専門基礎英語」でも取り扱っている。
- 「小学校英語」の中で、言語の機能、コミュニケーションの原理、言語と文化の関係、リンガ・フランカ

としての英語、異文化間コミュニケーション能力、日英語の音声体系や文字体系の違い、語順の違いにみられる話者の認識の仕方の違い等への理解を深めるような内容を伝えている。

●①の一環として実施

- 2019年度新設大学ですので、授業は始まっていませんがコアカリキュラムに準拠して実務家教員が英語に関する背景的な知識を教えます。
- 2019年度入学生から3年次後期の「初等科英語（2単位選択必修）」で指導する予定。
- 3年生対象の「児童英語」で英語圏の児童文化（ナーサリーライム、絵本）や英語圏を含む異文化理解を取り上げている。ネイティブスピーカーによる特別講義（1コマ）も実施。
- テキストを活用している。
- 異文化などについては模擬授業の指導過程で言及することはある。
- 英語に関する基本的な事柄、第二言語習得論、児童文学、異文化理解等
- 英語に関する基本的な知識は音声学、英文法など他の授業受講が必修、最低限の言語習得論と、絵本などを活用し児童文学や異文化理解を取り入れている。
- 英語の音声や文構造について学習している。
- 英語の成り立ちや英児童文学を学ぶことを通して、豊かな背景的知識を得ている。
- 英語の歴史や異文化コードの特徴を説明しています。
- 英語科概説と教育法の授業の中で行っている。
- 英語学的、英語史的知識の概要を指導している。
- 音声や語彙、文構造、正書法、インプット学習、アウトプット学習、定型表現の暗示的知識に到るまで幅広く学んでいく。
- 絵本の英語に関しての気づきを通して
- 教科書を使って、英語の文字や音声に関する知識を学んでいる。
- 教材分析の授業中に組み入れている。
- 現代英語の音声、文字、形態、統語に関する基礎知識の養成
- 謝肉祭の絵本などを通して、外国文化について理解を深めること。
- 授業で取り扱うだけの時間がないので、いくつかの課題図書を選択し、その書籍を読んで感想文を書く、という課題を一学期に一度与えている。
- 授業の講義内容として扱っている。
- 小学校の英語の授業で活用できる英語の歌や絵本の紹介を通し、韻や発音、文構造等について解説している。読み書きについては、アルファベットの文字と音の対応、日本語の音声や正書法との違いについて解説している。これらの理解については、コメントペーパーを通じてアウトプットとフィードバックを行っている。
- 小学校英語内容論の授業を通して、英語学、英文学教員が、英語という言語の特質について知識として教授するだけではなく、例えば、英語音声の発声の練習等も含めて、実践的に指導している。
- 他の英語関連の授業の中で扱うようになっている。
- 第二言語習得、異文化コミュニケーション、英語の歌・チャンツ、英語圏の子ども文化など
- 補助教材を用いている。

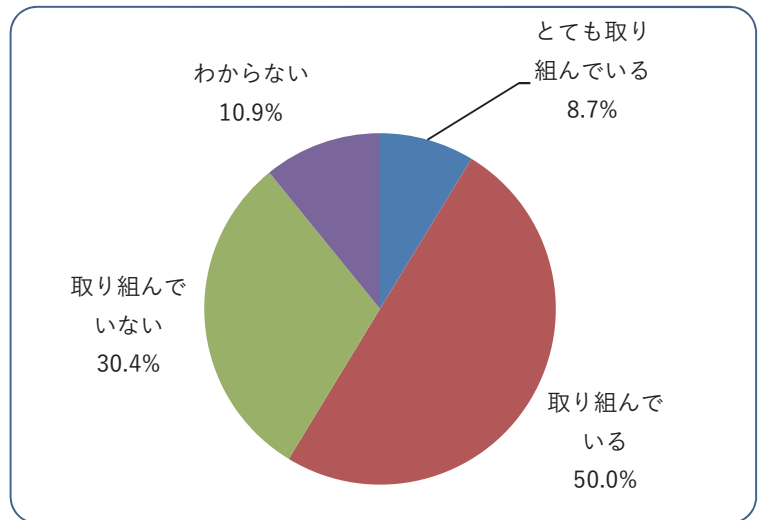
③取り組んでいない

- 現段階では取り組んでいないが、令和2年度より英語学や英米文学の授業の中で、小学校英語を意識した内容も指導されることが検討されている。

Q2. スピーキング力の指導法・評価法について、貴大学の養成課程でどのように取り組まれているか、選択肢の中からひとつお選び下さい。

選択肢	度数	割合
1 とても取り組んでいる	4	8.7%
2 取り組んでいる	23	50.0%
3 取り組んでいない	14	30.4%
4 わからない	5	10.9%
合計	46	100.0%

単位(校)



① とても取り組んでいる

- 「小学校英語指導法」という科目内で指導している。
- 授業内ではもちろんのこと、課外でも学校法人全体の組織で主催するレシテーション大会への参加を促している。
- 初等英語教育法で、全員の Teacher Talk を、スピーチ形式で行っている。そのほかに講義買いのチャットルームと連携したプログラムにおいて、Native に向けてスピーチをする取り組みを年に2回行っている。
- 小学校英語スキルアップ講習の実施

② 取り組んでいる

- 「小学校英語指導法」において、学習指導要領の目標に基づき、「話すこと」に関する技能の指導法の実際と評価の観点の立て方、評価の具体的な文言等について触れている。
- 2019年度新設大学ですので、授業は始まっていませんがコアカリキュラムに準拠して実務家教員がスピーキング力の指導法・評価法を教えます。
- 2019年度入学生から3年次前期の「教科教育法英語(2単位必修)」で指導する予定。
- Q1 ③、⑤で述べたような取り組みを通じて、英語で授業ができる力を育成しようと試みている。しかし、一コマの授業では限界があるため、現在学内の施設(Teikyo Language Commons)の協力を得て、英語でコミュニケーションできる力を育成するプログラムを学科として検討中である。
- Show & Tell や、簡単な絵を見て英語で説明する活動を取り入れている。(後者は香川県の採用試験の面接で課されるため。)
- Small Talk やパフォーマンス課題の実施や、ルーブリックを用いた評価等について指導している。
- アウトプット能力を養成する目的の授業中に組み入れている。
- あくまでも評価に関する大綱的な議論の中で、スピーキングの評価活動について触れてはいるが、あまり実践的に踏み込んだ内容とはなっていない。
- グループ活動を積極的に取り入れ、英語で話せる雰囲気を作り、その中でスピーキング力を高め評価している。
- スピーキングの指導については指導しているが、その評価については指導が不十分だと認識している。
- パフォーマンスやスピーキングテストを通じて、場面や目的に応じて適切な言語使用ができているか、ある話題について会話を持続させることができるかどうかを評価する。
- 学生にスピーチをさせ、指導のコツを教えている。
- 基礎的な知識を学んではいます。現実的には知識レベルでとどまっていると思います。
- 教室内で起こりうる AET との会話(ダイアログ)の暗記をする。
- 指導案の作成、模擬授業、観点別学習状況の評価、評価基準の設定等
- 授業で行っている。

- 授業中に実際に学生同士でお互いにパフォーマンス評価を行なっている。その際に評価基準を明確にするように指示し、ルーブリック評価を体験させている。
- 授業内で主に扱っている。
- 小学校での具体的なものがでていないので、一般的な評価法について触れている。
- 全学必修のコミュニケーション英語科目において、英語を母語とする教員による科目を含めた様々な授業を通して学生自身の全般的なコミュニケーション能力を高めている。また、中高英語の一種免許状に対応した指導法科目では、受講者全員が英語のオーラル・イントロダクションを演示しあってコメントを与えあったり、生徒役の受講生の発話・発音に対して教師役の受講生が即座にフィードバックを行うという練習を行ったりしている。
- 発表ややり取りの言語活動における行動観察、ワークシート等の活用による自己評価の項目作成など

③取り組んでいない

- 現段階では取り組んでいない。共通教育を巻き込んで早急に議論すべき内容であろう。

④わからない

- 学習指導要領上の「話すこと」の指導に焦点化はしていないが、chants や activity の中で、声を出し互いに英語で情報交換できるように指導する場面で、英語による instruction の提携表現を教えている。

Q3. 貴学の小学校教員養成課程を卒業し、将来、小学校で外国語の指導を行う教師として身に付けているべきとお考えになる英語力についてどのようにお考えですか。

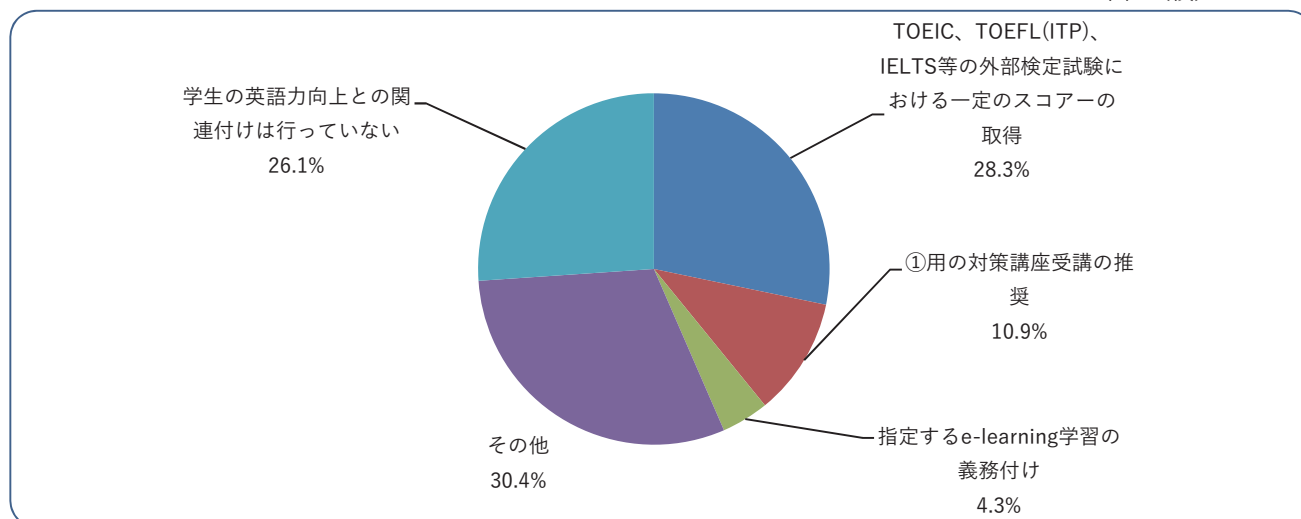
- (大学で統一したものがありませんので個人的意見になります) 上記 scales や資格試験では測れないと考えています。具体的には、中学校レベルまでの英語を使うことができる、小学生に分かるように classroom English をジェスチャーを交えて使うことができる、児童に対して英語で examples, recast ができる、小学生に分かるように small talk ができる、など。
- CEFR A2、英検準 2 級 理由：CEFR A2 のディスクリプターまでが小学校段階の指導に関連が深いと思うため。
- CEFR B1 より少し下程度 英検 2 級 または英検準 2 級 TOEIC 600 (もっと高い方が良いが、現状では、英語専攻学生ではないので、他教科の授業力が育っており、それを引き出しながらである。英語はこのレベルから、学生はあまり間違わずに英語で Teacher Talk ができる。
- TOEIC 700 ~ 800
- TOEIC 550 点 (LR)、英語授業の 50% を英語で進行
- TOEIC 600 点以上。小学校での英語教育を充実させるためには、ある程度の語学力が必要と考えるから。
- そもそも”英語力”なるものの正体(概念規定や基準)がわかりません。
- 英検 2 級以上、TOEIC 550 点以上 理由：宮城県公立学校の教員採用試験において、小学校、中学校英語、高等学校英語を志願する場合に有していることが望ましい資格(スコア)として示されているため、これを一つの基準として、この程度の英語力は必要であると考え。
- 英検 2 級
- 英検 2 級
- 英検 2 級 TOEIC 550 文部科学省の求めるレベルである。
- 英検 2 級 英検 2 級の二次面接試験に合格できるコミュニケーション能力があれば、英語指導に対応できると考える。
- 英検 2 級 英語での簡単なやり取りが可能なレベルだから、ただしこれは最低レベル
- 英検 2 級 小学校の現状を考えると妥当な英語力と考えるから。
- 英検 2 級、TOEIC 500 以上
- 英検 2 級、TOEIC 550 点以上 理由：教員採用試験(1次)において、教育委員会が設けた加対象となる最低条件であるため。

- 英検 2 級；TOEIC 700 以上
- 英検 2 級～英検準 1 級以上、TOEIC750 以上 教員採用試験の際にも求められる英語力なので
- 英検 2 級が理想ですが、准 2 級が現実的だと思います。
- 英検 2 級または準 1 級の取得。
- 英検 2 級レベル
- 英検 2 級レベル
- 英検 2 級レベルでよいと思います。
- 英検 2 級レベル以上
- 英検 2 級レベル以上 理由：コア・カリキュラムで示されているため
- 英検 2 級レベル以上 理由：実習要件としている
- 英検 2 級以上
- 英検 2 級以上 採用試験で加点対象となるのはこのレベル以上。英検 2 級を持っていれば小学校では十分に対応できると考える。
- 英検 2 級以上 理由：児童に対してコミュニケーションを即興で行うために最低限必要と考えられるため
- 英検 2 級以上 理由：文科省に沿って
- 英検 3 級以上。英検 3 級の内容を実践で使いこなすことができれば、小学校での外国語指導の場でも児童並びに ALT と英語でしっかりコミュニケーションがとれると考えるため。
- 英検準 1 級以上 理由：大学中級程度の英語力は習得していることが望ましいと考えるため
- 英検準 2 級
- 英検準 2 級レベル以上 基本的英語コミュニケーション力が担保されるから
- 英検準 2 級以上
- 英語のレベル：TOEIC 550 レベル以上 理由：決して高いレベルではないが、英語科の学生ではない本学の場合、TOEIC550 レベルが妥当。また、TOEIC スコアと授業に必要な英語力は必ずしも合致しないと考えるので、TOEIC であれば 550 で良いと考える。
- 英語のレベル：英検 3 級以上
理由：小学校で英語を教える教員には、中学校レベルの英語は修得しておいてほしいため。
- 英語のレベル：英検準 2 級以上
理由：小学生を対象とした授業を行うためには、高度な語彙や文法知識よりも、児童が理解しやすい平易な語彙・文法を活用して、わかりやすく伝える力が重要であると考えため
- 英語力のレベル：CEFR B1（スコアー）レベル以上
理由：[鹿児島県教育委員会の教員採用における小学校外国語の受験者に対する加点等の状況、および、実際のコミュニケーションに必要な英語運用能力としては、CEFR B1 以上のレベルに達していることが望ましいと考えるから]
- 英語力のレベル：英検 2 級レベル以上 理由：十分とは言えないが、少なくとも英検 2 級程度の英語力は必要と考えるため
- 外部試験等のスコアなど具体的には考えていない
- 個々のレベルにあわせた英検の受検を促している。
- 小学校英語教育に必要なレベル
- 小学校教員にも英検準 1 級相当の英語力は必要である。英検 2 級相当の資格は大学入学前に取得済の教員も多くいるため、大学に入っても継続して英語力向上を図るよう準 1 級相当とした方が良い。その際、4 技能全てを直接評価する資格試験のスコアの得点を指標として用いるべきである。したがって、TOEIC については L/R のみでなく、S/W のスコアも含めた総合得点を指標として用いるべきである。
- 全教科を担当することを前提とした小学校教員の特定教科における技能について、CEFR や外部検定試験のレベルで議論することは難しい。小学校の英語のレベルにふさわしい英語力としか言いようがない。
- 未回答

Q4. 英語指導法を教授する中で、学生自身の英語力向上とどう関連付けておられるか。
 選択肢の中からひとつお選び下さい。

選択肢	度数	割合
1 TOEIC、TOEFL(ITP)、IELTS等の外部検定試験における一定のスコアの取得	13	28.3%
2 ①用の対策講座受講の推奨	5	10.9%
3 指定するe-learning学習の義務付け	2	4.3%
4 その他	14	30.4%
5 学生の英語力向上との関連付けは行っていない	12	26.1%
合計	46	100.0%

単位(校)



その他

- ①②③すべてを行っています。
- 4 技能向上に特化した専門授業での取り組みを通して
- Q3の回答の通り、外部検定試験のレベルなどと関連づけることはしないが、Q1の⑤で回答したように、英語力アップに努めている。
- さまざまな検定に向けた勉強法の紹介と英検受検の勧奨。
- 英検準1級受験を推奨。授業内・外で対策を行っている。
- 外国語の指導法および外国語に関する専門的事項に関わる科目の開講は来年度からであるため、まだ実施しておりません。
- 関連付けは行っていないが、教員採用試験で加点対象であることは常にアナウンスしている。
- 教室英語の活用とその定着のための小テスト
- 現段階では行っていないが、来年度からは行う予定である。
- 現段階で学生の英語力向上との関連付けは行っていないが、今後、工夫が必要である。
- 大学全体で TOEIC の受験を義務づけている。
- 中高の英語免許+小学校免許を取る学生と、小学校免許のみを取る学生がいますので、一律には解答できませんが、前者の場合は定期的に外部試験を受験しています。
- 独自の方法・内容でICTも活用しながら試行している
- 本学では語学科目に力を入れているので、そこでの発展的な学びを活かすように指導している。